

高等教育研修センターの主な役割と成果について

1. 教育の質保証の根幹を支える

大学院教育推進機構高等教育研修センター（以下「研修センター」と略す）では、年間30回程度の各種FD研修を提供している。研修領域は①授業デザイン、②教授技法、③高等教育の動向、④学生支援、⑤マネジメント、⑥コミュニケーションの6つに分けており、教職員の幅広い能力開発を可能にしている。

近年では、講演形式の研修はオンライン開催、グループワークが含まれるワークショップ形式の場合は対面開催とし、効率的で効果的な研修の実施に努めている。また、多忙な教職員のため、研修の動画教材化にも取り組み、必要なときに必要なテーマについて、いつでも学べる環境を整備している。

そして、アクティブラーニング、オンライン授業そして生成AIなど、時代の要請を即座に取り組み、必要な調査研究を実施した上で、それらの調査結果の公表や調査結果に基づく研修の提供などを迅速に行っている。

また、学内のいくつかの組織からは、セミナーの共催依頼を受けている。それは、セミナーを周知し参加者を増やすためであったり、オンライン配信用機材がないためであったりする。学内における研修組織として、研修センターの認知度が向上してきたことの証である。

このような取り組みにより、次のような成果が挙げられていると考えられる。(1)授業改善に励む教員にとって、頼れる機関が存在している。(2)部局を横断した教員の取り組みや情報を共有する場が発生している。(3)最終的には、学生の学びの持続的な改善、質向上につながっている。

各種根拠データ

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
研修回数	16	31	40	51	37	22	24	31
研修参加者数	673	940	1164	1092	1150	1412	2055	1670
学内参加者数	470	755	708	670	707	747	922	942
研修参加者数に占める学内参加者の割合	69.8%	80.3%	60.8%	61.4%	61.5%	52.9%	44.9%	56.4%
オンデマンド教材数	0	0	1	4	8	15	27	19
オンデマンド視聴回数	0	0	64	250	263	2000	1414	617
共催研修回数	0	0	2	6	5	4	10	10

センター設立以来の研修参加者実数

A	参加者実数累計	1413
B	2023年5月1日現在教員数	1963
	Bに占めるAの割合	72.0%

センター設立以来、およそ7割の教員が研修センターを利用していることになる。

2. 教職員の国際通用性の向上に寄与

研修センターでは、教職員の国際通用性の向上を支援することで、大学全体の国際通用性向上に寄与している。教員向けには、英語で授業を実践するために必要な研修、国際学会で発表を行うためのプレゼンテーション研修などを、事務職員向けには留学生とのやり取りを想定した英語コミュニケーション研修や英語での E メールライティング研修などを実施している。他にも、教職員を問わず必要な異文化理解や異文化コミュニケーションに関する研修などを実施している。

また、本学に勤める外国人教職員のために英語で研修を実施し、ハラスメント研修を始めとするいくつかの動画は、英語字幕を付けて提供している。外国人教職員への対応も含めたインクルーシブな研修を、これほどまで実施している大学は他にない。

さらに、海外大学の FD 組織を積極的に訪問し、情報交換や授業参観そして研修に参加することで、得られた知見を本学での研修に反映したり、本学の研修講師として招いたりしている。

このような取り組みにより、次のような成果が挙げられていると考えられる。(1)本学教員が担当する授業の国際通用性が向上している。(2)本学の教育の魅力が向上し、世界中から学生や教職員が集まるようになってきている。(3)多様性が高い環境で働く私たち教職員の異文化理解力や、異文化コミュニケーション力が向上し、業務を円滑に遂行できるようになっている。

各種根拠データ

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
国際通用性の向上に資する研修の実施回数	2	11	10	19	12	4	6	14
(うち英語での実施回数)	(1)	(5)	(5)	(9)	(6)	(2)	(4)	(10)
参加者数	136	280	144	220	240	43	195	218

・これまでに実施した国際通用性向上に資する研修の例

ループリック評価、シラバス作成 WS	ループリック評価表の作成やシラバスの作成に関する日本語でも定番の研修を、英語でも実施している。
Teaching in English、教育研究における異文化理解	日本人学生と留学生の混合クラスで授業をする際の、注意すべき点などを学ぶ各種研修を実施している。
海外の高等教育の動向	海外大学の講師を招き、世界の高等教育の動向を学ぶ講演会を定期的に開催している。
英語コミュニケーション	英文 E メールライティングなど、英語でのコミュニケーション力を向上する各種研修を実施している。

3. 全国的な教職員の人材育成拠点

研修センターのように FD の専門家を擁する組織を設置している大学は、全国でも僅かである。そこで、本学の研修センターは、「北海道地域の研修拠点としての役割を果たすものとする」と規程で定め、原則として全ての研修を学外に開放している。北海道にある 56 の高等教育機関が加盟する北海道 FDSD 協議会では、本学が代表幹事校を務めており、研修センターの研修情報等を速やかに提供している。そして、北海道全体の高等教育機関をつなぐプラットフォームを発展させるべく、協議会が毎年実施している北海道 FDSD フォーラムの運営では、中心的役割を担っている。

また、研修センターは設立年度に文部科学省から教育関係共同利用拠点に認定されており、当初から研修を学外に開放している。そのため、研修では毎回さまざまな機関から参加者が集まり、本学の教職員にも他機関の状況等を知るよい機会になっている。

なお、他機関から指導・助言を求められる機会は多く、専門家としてのコンサルテーションやオーダーメイド型研修の実施を通じて、他機関を積極的に支援している。

このような取り組みにより、次のような成果が挙げられていると考えられる。(1)他機関からの参加者がいることで、参加者の多様性が増し、より創造的な研修となっている。(2)専門家のいない他機関教職員の人材育成の支援となっている。(3)高等教育機関における教職員の人材育成拠点として、全国的な知名度を得ている。

各種根拠データ

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
国際通用性の向上に資する研修の実施回数	2	11	10	19	12	4	6	14
(うち英語での実施回数)	(1)	(5)	(5)	(9)	(6)	(2)	(4)	(10)
参加者数	247	317	175	320	288	43	195	309

・北海道 FDSD 協議会の加盟校内訳 (2022 年度末時点)

国公立大学	14 校
私立大学	30 校
高等専門学校	4 校
専修学校	8 校
合計	56 校